

満3歳 市民と共に育つ宇佐市民図書館をめざして

得松 昭行

1 はじめに

1995年7月から3年6か月かけて、1999年2月27日に開館した宇佐市民図書館は、満3歳の誕生日を迎えた。苅田町立図書館に学び、多くの先進図書館に直接教えていただき、大分県立図書館の適切な助言を得ながら、図書館づくりに市民の声をできるだけ生かすよう努めて、開館にこぎつけた。

文化会館図書室しか持っていなかった市につくる図書館だから、「いっそつくるなら日本一の図書館を」と市長にはつばをかけられて、先進図書館の力を借りると共に、図書館だけが孤軍奮闘するのではなく、市民と共に育つ図書館をめざすことにした。そのために類縁団体をはじめ多くの人の意見・要望・願いを聞くために時間を割いた。

今後とも多くの人の意見を聞き、要望に応えることを基本にすえた図書館をめざすが、本稿では3年間の宇佐市民図書館の歩みの中から、①「宇佐市民図書館のめざすもの」について、②ご意見箱の一例、③「利用者の集い」で出された市民の声について、述べることにした。

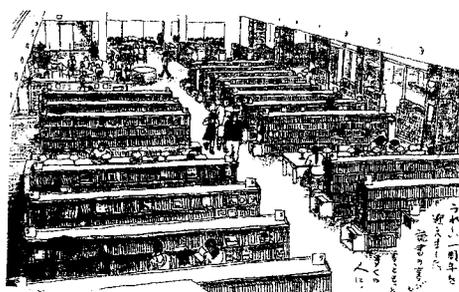
開館3年を経た宇佐市民図書館のデータ（概数）

| | | | |
|------|--------------------|----|---------|
| 貸出冊数 | 115万冊（1日当たり1,400冊） | 蔵書 | 13万冊 |
| 入館者数 | 85万人（1日当たり1,060人） | 雑誌 | 256タイトル |
| 登録者数 | 2万人（登録率40%） | 新聞 | 17紙 |

2 「宇佐市民図書館のめざすもの」

当時のメモには、市民からの要望として、次のようなことがたくさん並んでいる。

- * 「楽しく、ゆったり読書ができる図書館」（老人会）
- * 「本を読むだけでなく、くつろげる、癒される図書館」（「図書館友の会」）
- * 「人と人との出会いがあり、学び合える図書館」（文化団体）
- * 「生活情報、暮らしのヒントが得られる図書館」（女性グループ）
- * 「勉強したり、調べたりできる図書館。生徒の意見を大切に」（学校図書館協議会）
- * 「宇佐の歴史や情報なら何でも分かる図書館」（文化財保護のグループ）



- * 「映像や音響を楽しむことができる図書館」(老人会)
- * 「障害者の利用しやすい図書館」(障害者団体、福祉関係者)
- * 「学校週五日制のことを十分考えた図書館」(PTA)
- * 「公民館との提携を考えて、有効に活用できる図書館」(公民館関係者)

市民の声を聞きながら、「宇佐市民図書館のめざすもの」(10の項目、48の具体目標)がまとまった。以下がその10項目である。(48の具体目標は『宇佐市民図書館要覧』参照)

| 「宇佐市民図書館のめざすもの」 | 2002年度の重点目標 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① すべての住民に開かれた図書館 ② 新鮮で豊富な資料を持ち、ネットワークを進め、サービスする図書館 ③ 文化と歴史のまち・宇佐にふさわしい図書館 ④ 子どもたちへのサービスを重視する図書館 ⑤ ヤングへのサービスを大切にする図書館 ⑥ 高齢者や障害者にやさしい図書館 ⑦ 文化活動ができ、生涯学習に寄与する図書館 ⑧ 市民の情報センターとしての図書館 ⑨ 「ゆとり」「やすらぎ」「うるおい」のある図書館 ⑩ 専門職員がいてサービスする図書館 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 図書館サービス、図書館活動・行事の充実 (2) 子どもへのサービスの充実 (3) 自動車図書館の利用促進 (4) 郷土資料・行政資料の充実 (5) 職員の資質向上 (6) インターネットの活用 (7) 図書館ボランティアの活動 <p style="text-align: center;">「めざすもの」は毎年度の重点目標に焦点化され取り組まれている。</p> |

3 「声」を聞く、生かす

(1) 「ご意見箱」設置(4か所)とインターネットのメール

3年間で1000通を超える意見や要望が出され、メールの数も増えてきている。できるだけ「図書館から」に返事を書き、掲示し、できるものは実行に移している。図書館だより『みんと』への掲載もしている。

例：ご意見箱に入った利用者の意見

考え直すべき！図書館利用のマナー

館内の入口付近に図書館利用者の意見と、それに対する答えがはり出されているのを見ました。

利用者の意見の中に、もっとうるさい人を注意してほしい等の図書館の職員の方への不満がありましたが、あれは職員の方の注意が足りないのではなく、一人ひとりの意識や常識の無さが悪いからだと思います。誰もが利用しやすい環境にするために、もっと一人ひとりが図書館内のマナーについて考えなおすべきだと思います。

それから、図書館で飲食をすることを許可してほしい、そういった場所をつくってほしいと

いう意見がありました。それは単なるわがままだと思います。飲食をすれば、静かに読書をしている方に迷惑になるし、本などを汚してしまうおそれもあります。これは図書館利用の常識的なことであり、そういった意見を持たれる方は、もう一度考えなおすべきだと思います。

私は高校生の時からこの図書館を利用させていただいています。本来なら読書をするべきですが、持ち込み学習をしたいという人達のために、2階の席を増やして利用しやすいようになっています。時々温度の確認に来たりして、とても快適な環境で学習にうちこめて、とても感謝しています。

こういった環境があることを、現在住んでいる所で友達に話すと、「うらやましい」と言われます。それも毎日がんばっていらっしゃる図書館の職員の方や、この図書館を建ててくださった方々のおかげだと思っています。 (大学生・女性)

[図書館から] 大事なことを指摘していただいております。快適で利用しやすい図書館をめざして、職員はもちろん努力しますが、あなたが指摘されているような意識や常識を持って利用していただければ、全国に誇れる宇佐市民図書館になると確信しています。

マナーや利用のし方について、みんなで考え、みんなで注意しあえたらすばらしいですね。どしどしご意見をお寄せください。

(2) 利用者の集い

読書週間の行事の一つとして計画し、利用者の意見を聞き、図書館の現状や考えを述べる会にしている。

(3) 中学生委員会

市内5中学校の図書委員たちが集まり、次のようなことをしている。

- * 宇佐市民図書館への要望
- * 各中学校の図書委員会の活動状況交流
- * 各中学校の朝の読書の取り組み
- * 宇佐市民図書館から中学生への要望
- * 中学生の体験学習についての意見交換

4 利用者の主な意見

読書週間に実施された「利用者の集い」で出されたいくつかの意見を紹介しよう。

(1) 私は、もっぱら本を借りてさっさと帰るのですが、専門書がかなりそろっていて、ありがたいなあ、といつも思っています。又、「こういう本がほしい」と係りの人にたずねると、気持ちよさがしていただき、係りの人のマナーもいきとどいているのがわかります。入口の所に、時流にあった作家や事象など、テーマに沿った展示をしているのも、興味深く見させていただいています。市民図書館が、宇佐市の文化の発信をしていこうという姿勢が感じられ、刺激を受けます。

「ほんの森号」や職場体験学習等、小中学生を本好きに育てようとしていただいている配慮も

強く感じます。

多少、目ざわりだったり、やかましくっても、本を読みに来る若者達をぜひあたたかく育てていただきたいと思います。もちろん、マナーなどはきちんとご指導していただきたいです。

(宇佐市 50代の女性)

- (2) 宇佐市民図書館は、書店と違ってベストセラーだけでなく、理論書、啓蒙書、辞典、辞書、郷土資料、古い新聞など、実に幅広く置いているので、素晴らしいと思う。幅広い分野から本を選んでいるので、大抵のことは図書館で判る。有難いことです。

100万冊を超したというもうなずける。「図書館は貸本屋ではない」と言われるが、私は、良い本がたくさんあって、1冊でも多く読んでもらおうとすることは良いことと思っている。ところが、『みんと』だったか何かで、宇佐市民図書館は貸本屋ではない旨のことが出ていたと思う。貸本屋であってなぜ悪いのか、市民図書館が貸本屋にはなりたくないとするれば、その訳を教えて欲しい。無料で本を貸すのがなぜよくないのか、疑問である。

(宇佐市 50代の男性)

- (3) 雑誌の所に「休刊中です」と出ているものがありますが、復刊しなかった場合、補充をどのようにしているのでしょうか。私は趣味で川柳をやっていますが、「月刊川柳」が休刊になってから1年が経ちますが、いっこうに補充のきざしが見られません。発刊されていないと言われるかもしれませんが、「川柳マガジン」が出ています。宇佐市でも川柳人口が増えているので、図書館に必要な雑誌です。雑誌の見直しや入れ替えをしてもよいと思うのですが、図書館のご見解をお願いします。

(豊後高田市 60代の男性)

- (4) 学校に出向いてのブックトークや団体貸出が増えているのは嬉しいことですが、まだすべての学校に広がっているわけではありません。学校差が大きく広がっていると思うのですが……。学校との提携について市民図書館のお考えを知りたいです。学校には伝わっているのかも知れませんが、私達保護者はよく知りません。

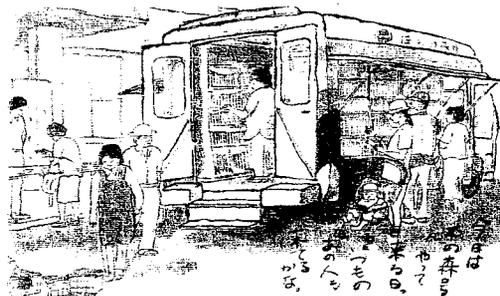
子供のマナーのしつけのことが度々ご意見箱に入っていて考えさせられます。これも図書館、学校、家庭が一体になって、真剣に考え、実際にしつけを始めない限りよい方には向かないと思うのです。

図書館だけに任せてはマナーは育たないけれど、せめて子どもカウンターに職員がいて、話し相手になったり、質問に答えたり、マナーを教えたりということは実行できないのでしょうか。

(宇佐市 40代の女性)

- (5) 休館日と開館時間についての声をよく聞きますが、私は現行のままでよいと思います。理由をいくつかあげてみます。

- 1) 土曜日、日曜日も開いているのに、1か月のうち1回も図書館に行けないというのは理解に苦しみます。行く気になれば、時間は作れるはず。図書館のせいにして、来れないの



をカムフラージュしているのではありませんか。

2) 午前10時～午後6時まで開館していることを市民に徹底すれば、それに慣れば、時間のやりくりをして図書館へ行くことはできるはず。時間を延ばして、図書館を若者のたまり場にしてはなりません。

3) 職員の超勤手当、電気代まで出して、夜間そんなに利用する人がいるのかも疑問。

(宇佐市 30代の女性)

(6) 学校から図書館が遠くてなかなか行けません。情報も届かず、たまの休みの日に行くと、休館日だったりします。二つお願いがあります。一つ、図書館に行けない中学生のことを考えて、図書館の情報を教えてください。二つ、自動車図書館を中学校にも回してください。

(宇佐市 中学生 女性)

(7) マナー一つをとってみても、よくないことだけをやかましく言うのではなく、こういう成果があったとか、こういうよい点、感心なことがあったといったことをもっと知らせてもらいたい。よさを前面に出して、プラス思考でよりよい利用者を育てていきたい。

(宇佐市 80代の男性)

(8) 市民図書館ができて、いろいろなことをやってくれているので、一種の読書ブームが起こっていたが、最近、慣れたというか、ちょっと下火になっているような気がする。

(宇佐市 50代の男性)

(9) 以前に住んでいた所では、学校図書館に学校司書がいて、読書指導も利用指導もやっていただいていたので、子どもたちが育っていた。「学校図書館に人を」ということを自治体に働きかけていくべきだと思う。

国は補助教員を増やすとっているが、学校図書館に人を置いてほしい。小さい頃の読書の大切さを忘れてはならない。

(宇佐市 30代の女性)

5 今後の取り組み

市民の意見や要望を聞き、図書館の考えていることを述べ、相互が協力してよりよい図書館をめざしているいくつかのことを紹介したが、意見や要望は、ややもすると無責任で批評家の域を出ないものになっている。

今後の課題の一つは、意見・要望を大切にすると共に、市民参加により、市民の図書館としての存在意義を互いに実感できるようにすることである。幸い、ボランティア活動の輪も広がってきているので、より多くの市民が参加する図書館になる日はそう遠くないと思っている。

(とくまつ てるゆき 宇佐市民図書館)